

目白の杜から「その一」 学習院と新天皇

村島 秀次

はじめに

山手線の目白駅の改札口はひとつで、その改札口を出ればわずか一分以内で学習院のキャンパスに西門から入ることが出来る。いかにも目白駅は、学習院専用の駅であるような錯覚を与えるが、もちろん他にも川村学園や、日本女子大学などの有名校もあるので、目白駅は、学生と幼稚園児のための駅であることは疑いようがない。

戦前は、学習院が特別扱いされていたのは事実で、現在、豊島区立目白小学校のある学習院正門の向かい側の敷地には、学習院に通う皇族や華族の師弟が通学のために使用していた馬車のための馬場や厩舎があった。現在の学習院は普通の学校になったが、独特の歴史と伝統を持った学校であり、その学習院で私が見聞きした面白い話をここでお伝えしたいと考えている。

目白の学習院のキャンパスはいつも静謐で緑が深く、春は桜、秋は紅葉が美しい場所で、近くに寄られたら是非訪れてみては如何だろうか。一般に、大学のキャンパスは何処でも、入場自由であり、しかも良い事に、入場料も無料(大学習院の博物館も無料)となっている。東京大学の本郷キャンパスは、今では中国人観光客でごった返している。

一、幕末の京都で

いつも幕末史で不思議に思うのは、朝廷と連携して倒幕の中心になった長州藩が、武家でありながら、尊王攘夷とはいえ、あれ程まで天皇や公家と一体で行動できたのかということにある。なぜ長州藩士が天皇や公家と親密に接触できたのか。その答えは、幕末に果たした学習院の役割にあるという意外な事実をご存知だろうか。

冒頭でお話ししたように、学習院といえは東京目白の学校で、明治以降に設立されたのではないかとお思いではないだろうか。実は、学習院は幕末京都で設立されている。具体的には、弘化四年(一八四七)に京都御苑内で、公家のた

めの教学の場として学習院は開校されたのである。その場所は、現在の京都御所と新しい京都迎賓館の間にある松の木が茂った空き地で、今も「京都御所学習院跡」の木札がひっそりと立っている。学習院設立の本来の目的は、困窮した公家の乱れた風紀を糾すためにあったというが、現実には尊王攘夷の嵐の中で、公武合体の和宮降嫁後の朝廷による武家勢力の取り込みに利用された。

朝廷にとつては、長州や薩摩藩などの武家勢力を取り込もうとした場所であり、武家勢力にとつては、朝廷に接近できる唯一の場所としての役割を果たしたのである。学習院では、儒学の講釈と和書の購読が行われたが、初代の学習院伝奏が三条実万(さねつむ)で、後の維新政府の実質的な首相(当時は右大臣、太政大臣)となった三条実美(さねとみ)の父親である。

文久二年(一八六二)正月、長州藩の関係者が初めて許されて学習院を訪れたが、朝廷は攘夷に関わる周旋事項を命じた。この周旋事項を長州藩では「学習院御用」と呼び、それに従事するものを「学習院御用掛」として、桂小五郎、

高杉晋作や久坂玄瑞らが任命されたのである。したがって、桂小五郎(後の木戸孝允)らが三条実美や岩倉具視と出会って親しくなったのが京都学習院という事になる。

朝廷はさらに長州藩士らに、学習院において時事を建言することを許可したので、学習院は勤王の志士らの朝議介入を許す窓口となつている。そして、さらに八月十八日の政変後の七卿落ちで、三条実美は長州へ落ち延びるという事態に発展したのはご存知の通りである。一般の歴史書には、あまりこの京都学習院の存在は語られていないため、隠れた史実といえる。

二、乃木希典と昭和天皇

この京都学習院は、維新後の明治三年(一八七〇)に、天皇や公家たちが東京へ遷居したため一旦閉校になり、明治十年(一八七七)に皇族や華族のための学校として、神田錦町に新しい学習院が開校する。間には七年のブランクがあり、運営主体も京都の朝廷から東京の華族会館(現・霞会館)に変わったため、同名の全くの別の学校であるとも言えるが、幕末の京都で孝

明天皇から下賜された「学習院」の勅額や、七千冊に及ぶ京都学習院の蔵書が引き継がれたことから、ひとつの学校と考えても良いのではないだろうか。

初代の学習院長には、三池藩主の立花種恭（たねゆき）が就任したが、三池藩は柳河藩主立花宗茂の弟・直次を藩祖とする支藩であった。明治になり柳河藩の立花家が伯爵で、三池藩は子爵となっている。

そして、明治四十年（一九〇七）に、第十代学習院長に長州藩出身の乃木希典が就任する。乃木將軍は明治天皇の信頼が厚かったといわれているが、乃木院長の就任は翌年に控えた学習院の目白校地への移転と、昭和天皇の初等科入学に備えた措置ではなかったと考えられる。昭和天皇が学習院に通ったのは、初等科のわずか六年間だけであった。初等科を卒業すると、すぐに東郷平八郎を総裁とする東宮御学問所に入っている。つまり、昭和天皇は、陸軍の乃木希典と海軍の東郷平八郎の二人に教育を受けたことになり、これは明治天皇の意向であったと考えられる。現在の学習院の目白キャンパス

には、乃木希典時代の遺構がまだ残っているが、旧図書館（北別館）や、乃木が寄宿していた寄宿舎の一部（乃木館）、御榊壇などがその代表である。学習院時代の乃木希典のスナップを見ると、どれも穏やかな表情で微笑ましい。

三、新天皇と歴史学

去る四月一日に新元号が発表され、五月一日に新天皇が即位された。新元号には、皆さんはもうお慣れになったろうか。今上天皇には、象徴天皇としての存在感を増して欲しい。

昭和天皇は、初等科の六年のみを学習院で、そして平成天皇は高等科までを学習院で過ごされたが、お二人とも基本的にはチューター制度、つまり家庭教師がついていたのだが、初めて学習院大学まで進学されたのが今上天皇という事になる。今上天皇はイギリスのオックスフォードに留学された後で、学習院の大学院修士課程まで進学されている。

大学院における専攻は歴史学で、交通史がご専門とお聞きしている。ということは、私の大学院の先輩という事になる。天皇が古

代史を専攻される訳にもいかず、オックスフォードでも研究はテムズ川の水運についてであった。昭和天皇や平成天皇が生物学にご興味を示されたのは有名であるが、今上天皇は歴史学で、愛子さん come 来年学習院大学では史学科希望という情報もある。

ちなみに、今上天皇が初めて小和田雅子さんに会われたのは、昭和六十一年（一九八六）十月十八日、東宮御所（当時の東宮は平成天皇）で開催されたスペイン国王のエレナ王女歓迎の茶会という事になっている。最後は、芸能ニュースでこの稿を締めくくりたい。

【参考資料】

- ・学習院大学史料館ミュージアム・レター
- 31号「幕末京都の学習院」展
- 35号「黎明期の学習院」展
- 38号「学び舎の乃木希典」展
- ・中嶋繁雄『大名の日本地図』文春新書
- ・ウイキペディア

